

# オリーブの樹

第128号

2015年3月15日

## شجرة الزيتون

早期釈放！ 重刑策動をはね返し、重信さんを支えていこう！



三・一一逝き  
命に代えんと  
脱原爆旗  
高く掲げよう

### 目次

- P 2 1月2月の歌 重信房子  
P 3 独居より 重信房子  
P 18 読んだ本 重信房子  
P 19 戦争をする国 差別煽る国 嘘をつく国 暴力の国 森本忠紀

重信房子さんを支える会

一月二月の歌

重信 房子

哀しい夢目覚めて立てば獄窓に有明の月静かに佇む

おみな等の平和訴う赤フアツション赤、赤、赤の国会議事堂

凍る月砂漠の瓦礫に影描く生きているのか囚われし人よ

粉雪舞う獄に一輪冬薔薇後藤健二の命を惜しむ

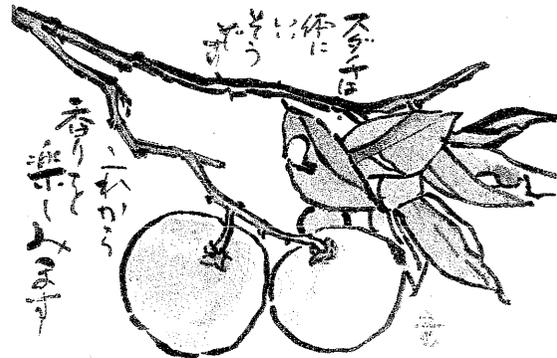
春立つ日名残り雪見つ祈ること友や吾子らの戦場の平安

むせる程笑いこぼして若きらは獄の陽だまりに寄りて森し

暁闇の藍色の空にひとしづく黄金に燃えるつごもりの月

聴力の検査向きあう吾夢は吾耳は斥候のごとく鋭く心

ムスカリの雪割りて咲くレバノンの吾子の便りを独房で読む



独居より 1月8日~3月9日

ISは個々の日本人がアラブの人々の味方か否かではなく、  
日本国の政策、安倍政策に対決して日本人を殺し始めています (2月1日)

重信 房子

うにデモ行進。獄にはTVもないし個々の発言は分かりませんが、アッバスパレスチナ大統領は何を発言したのでしょうか。「大合唱に与しない自由もまた同様に命を懸けて守ろう！」と言ってくれたかしら?!「パレスチナ人の命も平等だ!」と言ったのかしら?! この大合唱に苦悩するイスラムの人々もどんなに多いことでしょうか。そしてこの大合唱を喜ぶのはISや「アルカイダ」というパラドックスがわかるでしょうか。

1月14日 「シャルリー・エブド」の特別号が発売され、16カ国三百万部発行されるとのこと。ムハンマドの風刺画の表紙を各国の新聞社(日本を含めて)がどのように扱ったかが載っています。アラブ諸国ばかりか、世界のイスラムは反発批判を益々増大させるでしょう。「ムハンマドを描かないこと」が宗教内容でもあるのですから。預言者ムハンマドを侮辱することはイスラム教徒への侮辱の煽動と捉えるので「宣戦布告」と捉える者もいるでしょう。これではISを助けていることになるのに……。

1月15日 午後「オリーブの樹」127号交付されました。ありがとう! ちょうど元旦の「日誌」が新年挨拶となっています。表紙の絵もカットも季節の実や花。表紙の一首のように「命の平等でない現実」に向きあって解決したい新年です。

ユニセフ発表の“世界で2億3千万人の子どもたちが紛争下で暮らしている”他に足下の日本でも貧困や虐待に苦しむ子供たちが多く居ることをNGOの告発などから学びます。

今号の中に12月6日の「土曜会」などの主催した「土屋源太郎さんを支援する集い」での土屋さんのお話を転載させて頂きました。感謝。

「オリーブの樹」で自分の日記を読み返すわけですが、学習ととらえ返すことも多いです。また名前がイニシャルになっていないものもあって申し訳なかったです。(獄中からはイニシャルなどの暗合状のものは不許可のため、名前など日誌にそのまま記し編集室の方々に数人の知られている人々以外はイニシャル

1月8日 新聞では仏の風刺画が売りの週刊新聞社が襲撃され、12人死亡との一面記事。今年はこのように事件が増加しそうな気がします。「言論の自由」と「ヘイトスピーチ」問題の日本と二重写しになってみえます。「人権規約に基づく言論の自由を」「言論には言論を」と思いつつ虚しい思いで記事を読んでいます。

1月9日 最高でも9℃。朝はマイナス4℃の八王子。それでも快晴でこの房の窓が温室効果のためか寒くない。八王子に住んで初めて暖かい房に当たりました。仏新聞社襲撃で12人死亡との記事が今日も続報。痛ましい現実ですが欧州で差別されているイスラムの若者たちの怒りもまた同じように痛ましい。「言論の自由」の大合唱が他者の文化や習慣を抑圧しないことを願うばかり。どの国や文化にも良いかどうかは別にして「タブー」があるのですから、日本もまた「ヘイトスピーチ」や「皇室」批判に対する「嶋中事件」などこの機会に考えるのでしょうか。

元旦にパレスチナが「国際刑事裁判所」に加盟申請したことに、イスラエルもアメリカも「反対」を表明。イスラエルもアメリカも自らは加盟もせずに反対を表明する身勝手さです。イスラエルの戦争犯罪が正当に裁かれる場がパレスチナの側に生まれることは何よりも重要です。意味のない口ばりの「和平交渉」で時間を浪費するよりはるかに有効です。

1月13日 連休明け。  
夕方デジカメ歌人「小寒の便り。そちらの街の雪景色の注連飾り、門松見事です。ね。名を惜しめと賀状をくれし友逝くと妻の文あり雪降り始む」を選びました。

Iさんより「je suis charlie (私はシャルリー)」の大合唱に到底与みできません」とのお便り。本当に。仏の植民地支配の歴史と差別こそが問題の根本にあります。そのことから被植民地国の移民に視座を向けた仏大統領の発言があつてしかるべきなのですが「自由・平等・博愛」の自己肯定の前行進は空恐ろしい。しかも最大の殺人者ネタニヤフも悲劇の被害者のよ

一月二月の歌

重信 房子

哀しい夢目覚めて立てば獄窓に有明の月静かに佇む

おみな等の平和訴う赤フアツション赤、赤、赤の国会議事堂

凍る月砂漠の瓦礫に影描く生きているのか囚われし人よ

粉雪舞う獄に一輪冬薔薇後藤健二の命を惜しむ

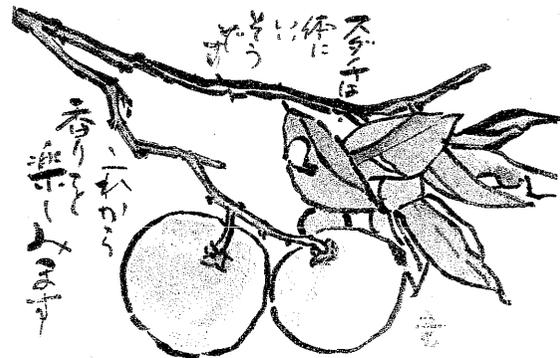
春立つ日名残り雪見つ祈ること友や吾子らの戦場の平安

むせる程笑いころげて若きらは獄の陽だまりに寄りて姦し

暁闇の藍色の空にひとしづく黄金に燃えるつごもりの月

聴力の検査向きあう吾夢は吾耳は斥候のごとく鋭く心

ムスカリの雪割りて咲くレバノンの吾子の便りを独房で読む



独居より 1月8日~3月9日

ISは個々の日本人がアラブの人々の味方か否かではなく、  
日本国の政策、安倍政策に対決して日本人を殺し始めています (2月1日)

重信 房子

うにデモ行進。獄にはTVもないし個々の発言は分かりませんが、アッバスパレスチナ大統領は何を発言したのでしょうか。「大合唱に与しない自由もまた同様に命を懸けて守ろう!」と言ってくれたかしら?!「パレスチナ人の命も平等だ!」と言ったのかしら?! この大合唱に苦悩するイスラムの人々もどんなに多いことでしょうか。そしてこの大合唱を喜ぶのはISや「アルカイダ」というパラドックスがわかるでしょうか。

1月14日 「シャルリー・エブド」の特別号が発売され、16カ国三百万部発行されること。ムハンマドの風刺画の表紙を各国の新聞社(日本を含めて)がどのように扱ったかが載っています。アラブ諸国ばかりか、世界のイスラムは反発批判を益々増大させるでしょう。「ムハンマドを描かないこと」が宗教内容でもあるのですから。預言者ムハンマドを侮辱することはイスラム教徒への侮辱の煽動と捉えるので「宣戦布告」と捉える者もいるでしょう。これではISを助けていることになるのに……。

1月15日 午後「オリーブの樹」127号交付されました。ありがとう! ちょうど元旦の「日誌」が新年挨拶となっています。表紙の絵もカットも季節の実や花。表紙の一首のように「命の平等でない現実」に向きあって解決したい新年です。

ユニセフ発表の“世界で2億3千万人の子どもたちが紛争下で暮らしている”他に足下の日本でも貧困や虐待に苦しむ子供たちが多く居ることをNGOの告発などから学びます。

今号の中に12月6日の「土曜会」などの主催した「土屋源太郎さんを支援する集い」での土屋さんのお話を転載させて頂きました。感謝。

「オリーブの樹」で自分の日記を読み返すわけですが、学習ととらえ返すことも多いです。また名前がイニシャルになっていないものもあって申し訳なかったです。(獄中からはイニシャルなどの暗合状のものは不許可のため、名前など日誌にそのまま記し編集室の方々に数人の知られている人々以外はイニシャル

1月8日 新聞では私の風刺画が売りの週刊新聞社が襲撃され、12人死亡との一面記事。今年はこのように事件が増えそうな気がします。「言論の自由」と「ヘイトスピーチ」問題の日本と二重写しになってみえます。「人権規約に基づく言論の自由を」「言論には言論を」と思いつつ虚しい思いで記事を読んでいます。

1月9日 最高でも9℃。朝はマイナス4℃の八王子。それでも快晴でこの房の窓が温室効果のためか寒くない。八王子に住んで初めて暖かい房に当たりました。

仏新聞社襲撃で12人死亡との記事が今日も続報。痛ましい現実ですが欧州で差別されているイスラムの若者たちの怒りもまた同じように痛ましい。「言論の自由」の大合唱が他者の文化や習慣を抑圧しないことを願うばかり。どの国や文化にも良いかどうかは別にして「タブー」があるのですから、日本もまた「ヘイトスピーチ」や「皇室」批判に対する「嶋中事件」などこの機会に考えるのでしょうか。

元旦にパレスチナが「国際刑事裁判所」に加盟申請したことに、イスラエルもアメリカも「反対」を表明。イスラエルもアメリカも自らは加盟もせずに反対を表明する身勝手さです。イスラエルの戦争犯罪が正当に裁かれる場がパレスチナの側に生まれることは何よりも重要です。意味のない口ばりの「和平交渉」で時間を浪費するよりはるかに有効です。

1月13日 連休明け。

夕方デジカメ歌人「小寒の便り。そちらの街の雪景色の注連飾り、門松見事です。ね。“名を惜しめと賀状をくれし友逝くと妻の文あり雪降り始む”を選びました。

Iさんより「“je suis charlie (私はシャルリー)”の大合唱に到底与みできません」とのお便り。本当に。私の植民地支配の歴史と差別こそが問題の根本にあります。そのことから被植民地国の移民に視座を向けた仏大統領の発言があつてしかるべきなのですが「自由・平等・博愛」の自己肯定の進行は空恐ろしい。しかも最大の殺人者ネタニヤフも悲劇の被害者のよ

化してもらっています。それが今回校正しきれないところがありました。)

土屋さんの話は50年代の日共と学生運動の関係なども含め「伊達裁判」も時代がかいつまんで良く解るものです。もっと知りたいですね。

1月16日 欧州では「反テロ」大合唱が続き、仏大統領は対IS壊滅に仏空母を派遣し空爆作戦宣言。益々対立と憎悪を煽っている気がします。500万人(?)のイスラム教徒を国民に抱えているのに。

国民の「融和」には配慮の欠けた「私はシャルリー」の大作進と大合唱。感情の即自的な暴力が広がっています。仏、ベルギー、ドイツ、各地で。

そしてアラブ、アフリカでもイスラムへの冒険に対する抗議が平和的にそして非平和的に各地で、ネットでも広がっている様子です。

こうした空気はシリアでそうであったように、まっとうな変革を求める知識層の宗教的または非宗教的な建設的勢力を弱体化させていくのです。武器の武力の優劣の闘いは、制圧と服従を無秩序に広げていくというのに。

Uクンは「朝日の一面トップの“イスラム過激主義を背景に表現の自由を踏みにじり17人の命を奪ったことに数十万の人々がたち向かう」とあるけど、欧米では自国が攻撃されたら抗議の声をあげるが、後進国といわれる虐げられた人々(ガザパレスチナ)が数千人数万人単位で殺されても沈黙か容認している」と批判しています。「この不公平な振る舞いにイスラエルのネタニヤフが然り顔でデモの先頭を歩いてみせるのは理解できる。しかし、パレスチナ自治政府のアッバスが何故一緒に歩くのか全く理解できません」とのお便り。

パレスチナでも同様の声が起こっていることでしよう。ちょうど、パレスチナが国際刑事裁判所に加盟申請を終え、4月1日に加盟許可されるので、それを受けてイスラエルの「戦争犯罪」を調べる予備調査を16日開始したと発表したところ。だからと言って、欧米の価値観に迎合する必要はないのに。

ネタニヤフの方は国際刑事裁判所への加盟申請に対抗して、パレスチナ人の税を代わって徴収している約150億円分をストップして抑圧を繰り返しながら被害者の代表のようにパリへ。茶番の極みですね。

1月17日 阪神淡路大震災から20年。脱原発をフクシマの教訓としても訴えたい日です。

今朝うけとった昨日夕刊に城崎さんの記事。不当逮捕攻撃に胸痛い。

1月19日 快晴。

友人のお便りで去年末NHKで山口淑子さんの特集を四方田先生が話しながら、私の短歌も披露しておられたとのこと。四方田先生はNHKが私の話はダメというのを何度も説得して放送実現したそうです。年末の渋谷での集いに参加した友人からも短歌や昔の山口さんと私のインタビュー映像まじえて四方田先生が山口さんについて話していたことに感動したとお便りがありました。

「自衛隊の海外拠点強化」が今日の一面記事。安保法制の審議を先取りし、ジブチの「海外基地」の拡充多目的化を計画中とのこと。25億ドル相当の支援を表明し、満面の中東訪問中の安倍首相プラス日本企業50社。円借款でも儲かるのは日本企業です。

1月20日 快晴! 霜で真白な運動場。マイナス3度の朝です。

午後は姉の初面会。体調を崩していたとのこと。癌のこと、健康についてなど話し合っているうちに、すぐに30分です。

夕方に高校時代の友人T子さんから便り。「先日テレビでお嬢さんを拝見しました」とのこと。中東情勢を語っていたのでしょうか。ちょうど友人の送ってくれたメイの記事も受け取りました。

女性誌の「いつも心にこの一冊」というメイの選んだ本はガッサン・カナファニーに『ハイファに戻って・太陽の男たち』(河出書房新社)という内容のもの。「中学時代に読み、日本に帰ってもう一度読み直したら、気づかなかった深い意味が浮かんだ」と。

『太陽の男たち』には4人しか登場しませんが、それぞれがパレスチナ問題の一面をみごとに表しています。家族を養うために密入国しなければならない苦しみ、武装手段を選んだフェダインで、政府から逃れている人、貧困が原因で家族が離散してしまった人、そして、こうした状況に置かれた人々の苦悩を利用する人々が描かれています」と語り、60年代に書かれたのに、『太陽の男たち』も『ハイファに戻って』も、パレスチナの「今」を、いまだに象徴し続けていることを語っているものです。

1月21日 今日の朝刊は殆どを使って『イスラム国』2邦人人質』の記事です。やっぱり……。エジブ

トでの、安倍首相の声高な対IS支援の演説はIS側を「怒らせる」口実に十分だった……。安倍首相の中東訪問中に、人質にしている日本人(私は新聞報道で一人しか知りませんでした)で、IS側は、大キャンペーン、政治プロパガンダを起こすと考えていました。

今日の新聞を読んで私が感じたのは「これは、これまでの3ヵ月以上の水面下の交渉を日本政府側が拒んだ『結果』だな」ということです。

ISは、軍事外交には彼らの論理があるのを、これまでから読み取れます。こうなった以上、IS側に、これからは「屈服か死か?」のすべてのカードを握られてしまいました。

ブッシュ政権との同盟や「イラク自衛隊派遣」以降、中東における日本の評価(私たちの闘いも好印象を与えてきた)は「米寄り」として見られ、変化しています。ISの待っていたタイミングで踊ってしまった安倍首相……。安倍首相の行動と発言は、ISにさんざん利用されてしまいました。「2億ドル」の要求は、安倍首相が対ISの避難民などへの支援を表明したのを逆手に取られています。中東側から見ると「非軍事的支援」かどうかは意味を持ちません。日本政府が米国政府、イスラエル政府と、どういう関係の中で「支援」しているのかが見られるのです。

たとえば、支援がIS支配下の難民に対してか、アサド政権下の難民に対してか、レバノンに逃げた百万を超えるシリア難民に対してなのかによって、その意味が違ってきます。アサド政権に敵対しない避難民はレバノンに逃げる人が多いし、IS支配下の難民支援がIS支援とは限りません。

安倍政権の動きは、米国の中東での対IS対応を補完しているので、ヨルダンが中心となっています。ISの「2億ドル要求」は「政治プロパガンダ」しているだけです。今のように、米国政府の音頭で「空爆だ!」「有志連合だ!」という動きは、ISを喜ばせているのです。客観的に見ても分かるように、ISの恐怖を騒ぎ立てれば、アフリカの「ボコ・ハラム」やアフガンや北アフリカのイスラム勢力などが益々影響力を拡大させるのです。

「間断のない空爆下十字軍の最前線に闘っているイスラム国」のイメージは、抑圧され過去の植民地支配の語り継がれた、社会知らずの純情な人々には、希望と映ってしまっています。

とはいえ、日本人人質の方々の、とくに、ジャーナリストの方には同情を禁じませんが、安倍政権は、



「公式見解」とは裏腹に要求を呑む考えはありません。今後の対IS対策のための情報収集と、無条件人質解放を目指しているのは一目瞭然です。当然、これまで公表されなくても動きはあったでしょうし、「何をおいても人命」ならISの現在の「要求」になってはいけません。これは「攻防の結果」の姿です。助けるだけならもっと「安い」代償で解放される道はあったと思えるからです。今からでも方法を駆使したら命を救うことはできるでしょうが、安倍政権は、そういう方法を取らないと決めているのです。

「積極的平和主義」とは、米戦略を補完しつつ、日本独占企業の利益を拡大していく道です。そうである以上、安倍政権は拒否を貫き、IS側は政治プロパガンダの有効性にそって殺し、あるいは、より有効な手段とするために、人質を利用するはずで

1月22日 昨日今日と雨で、最高6度、最低-3度。寒さや増す八王子。雨の朝は体感温度がより寒いのに、なぜかスチームが入りません。

泉水さんの腫瘍炎を案じています。泉水さんが友人に送った手紙で、岐阜刑ではカイロがまだ許可されていないと知り、驚いています。八王子も私が移監した時は不可でしたが、栃木刑で許可されているのを知り、処遇課に「面会願い」を出して、それを伝えて許可をお願いしました。「調べてみましょう」と調べ、栃木刑での使用を確認して、以来八王子でも許可となりました。岐阜はきっと聴く耳もなく、驚くほど理由にならない理由で、懲罰にしたりしている現実を見ても改善は遠いのかも知れません。何とか寒さを乗り切ってください。

友人から「1月17日、国会を取り囲む『女の平和』デモがあり、参加しました。7000人も参加。みな赤い服、帽子、マフラー、手袋など赤で装って、国会を二重に取り巻くほど集まりました。『女たちは集団

的自衛権の行使を認めません!』『よその国の闘いに加わりません!』『この国の主権者は私たちです!』『安倍政権にレッドカードを突きつけます!』その他のいろいろのコールで木枯らしの中意気軒昂でしたとのこと。連帯!連帯!レッドカード!レッドカード!安倍政権!!です。

1月23日 今届いた昨日の夕刊に、後藤さん(人質の一人)の様子をシリア人通訳が語っているのに胸を打たれます。「友人の湯川さんを助けたい」と「これからラッカに向かいます。……非常に危険なので、何が起っても私はシリアの人たちを恨みませんし、どうかこの内戦が早く終わってほしいと願っています」と、語る動画を通訳にスマートフォンで撮らせていたとのこと。

通訳は「彼は前線でもひるまない強い人。でも、軍事的な取材を好まず、市民や子どもの生活を伝えることにこだわっている。いつも笑顔で行く先々で歓迎された。何人ものジャーナリストと仕事をしたが、こんな素晴らしい人はいない」と後藤さんを語り、本人と確認したように、彼が戻らなかったので、11月1日ごろ約束に従って、後藤さんの妻らに電話したとのこと。「アンカラから日本大使館員が3回ほど事情を聴きにきたが、その後なしのつづて」と話しています。やっぱりですね。日本大使館が本気で人質にされたかどうか確認の上、解放しようとしたら、3ヵ月で何かできたでしょ?!先日読んだ「矢谷ケース」の時も同じで、都合の悪い時には日本人を助けられないのが日本大使館です。

デジカメ歌人「大寒」のお便りありがとう!市の「出初め式」の市民との記念写真です。「月色のジャンパーの背に月見が丘防災隊がいる出初め式」この一首もいいですね。「基地移設費増し減らすは振興費仕事始めは沖縄いじめ」今年もよろしく。

Mさん、吉国さんの本「アフリカ人都市経験の史的考察」ありがとう。はじめて知りました。吉国さんが、アフリカジンバブエの歴史学者になっていたとは…。「7・6」の最後に、「叛旗」か「中央派」か忘れたけど、拉致されて、腕を折られて苦勞されました。痩せて髪もじゃもじゃ腫大きく、昔のギリシャ・ローマ人みたいな姿で、「京都に帰る」と別れたのが最後でした。その後、「C戦線」で活動しているとアラブで知り、またマオイストの団体で、激しい抗争に追われていると聞いたことがありました。すでに亡くなられてしまったのですね。語り合いたい人でした。合掌。

今日はISからの72時間期限とのこと。中田教授の「提案」(IS支配地域の難民に赤新月社を通して2億ドル相当支援案と自らの仲介申し出)は一つの可能な方法を示しています。でも、日本政府は、教授らの民間の湯川さんの救出活動を察知して、10月に妨害してきたし、やる気がないのは目に見えています。彼ら安倍政権にとってもっと高貴で価値の高い人が誘拐されたのなら別でしょうけれど。

IS側が日本の「2億ドル援助」が米国に敵対勢力に使われると考える同じ論理で、非軍事支援であれ、IS支配下の難民を助ける考えは、安倍首相にはありません。2000回を超えるという米軍らの空爆で、どれほどの住民が殺され苦しんでいるかという想像をしない者たちは、また日本の金員支払いを阻止するでしょう。

戦争は「人」と「兵站力優劣」で、結局終局を迎えますが、ISの兵站力は弱まり、危機も深まっているはず。住民たちも当初ISに期待しなくなるでしょう。でもだからと言って、決して過去現在の米欧の植民地支配を許すはずもないと思います。

日本は、米欧と相対的独自の「九条外交」を中東政策の中心に据え直す時です。「ジブチ自衛隊」撤退含めて。

中東では「邦人人質」は殆ど報道されていない様子。当然です。日々何百人も殺されています。人質が殺されたら大きく載るとしても。でも、日本の大騒ぎのTV新聞は逆にIS側には伝わっているはず。日本の動きを見ながら次を考えているでしょう。

1月25日 今、ニュースで湯川さんが殺害されたとのニュース。詳しいことはラジオでよく分からないけれど、後藤さんの釈放に新たな要求とか。「2億ドル」は「政治プロパガンダ」で、これまでの政府の対応に応えた内容であったのと変わって、現実的な交換条件を出してきたと思います。ヨルダン政府は死刑囚の「恩赦釈放」は国王の名においてよくやってきました。今回もヨルダン人パイロットでIS捕虜になった人も一緒に後藤さん釈放に向けた妥協をヨルダンはやる可能性があります。後藤さんがISの敵でないと、イスラム国も理解したのかもかもしれません。何とか救われますように……。

1月26日 「湯川さん殺害か」写真持つ後藤さんの画像の一面記事。「24日公開の声明」も掲載されています。またもや、安倍首相に対する痛烈な皮肉

に満ちた声明です。ヨルダンに急遽設置した「対策本部」とヨルダンに収監中の女性死刑囚の解放と。

ヨルダンは中東の中で、70年代唯一私たちを弾圧(日高さん虐殺)し、日本政府に手を貸してきました。また、2000年岡本さん亡命のあの時「足立さんらメンバーは日本に強制送還しない」というレバノンの閣議決定の後のだまし討ちシナリオを支援したのもヨルダン政府でした。(祝日連休中に「ヨルダンが受け入れ表明」を口実に強制的にヨルダンアンマンへ足立さんらを移送。「空港で入国拒否された」という口実で拘束したまま日本に強制送還)

アブダラ王は、11回も訪日したとのことで、11月には人質問題の協力も約したとの記事。イスラエル・米国と同盟のヨルダンですが、この位の「サービス」は、日本が望むならやるでしょう。でもそれに乗じた米・ヨルダンら空爆や攻撃を企てる危険が、後藤さんに降りかからないことを祈ります。

ISと米・サウジらの軍事対決は、あちこちに惨事を広げています。米軍の空爆下、殺されている住民たちの情報は伝えられていません。

1月28日 今日の午後主治医診察がありました。2月に血液検査、CT、胃と腸の内視鏡検査を行うとのこと。内視鏡検査は一年ぶりです。「検査承諾書」3枚に署名・指印しました。

今日の新聞によるとIS側が後藤さんと「死刑囚」交換に「24時間のタイムリミット」を設定し「一対一の交換」であり、応じなければヨルダン人パイロットも殺すとのこと。ヨルダン側のパイロットを含む複数交換要求拒否の最後通告でしょう。時間を24時間と区切ったことで後藤さんの解放はほぼ不可能になった気がします。

「時間を区切る」「24時間」には何か隠された意図があるのか?ヨルダン人捕虜は生きていないのか?前便で「現実的な要求が出された」と思いましたが、オレンジの囚人服を着せられるのは水面下の要求が拒否された結果だと思われるのです。

すでに日本政府が後藤さんら2人を見捨てた上での要求なので、より厳しいハードルが科せられたのでしょう。日本政府の「拒否」と米・イスラエルと結ぶヨルダンというISの敵の中枢に日本が対策本部を置いたことで、ヨルダンを困らせようと画策したのか?新聞で読む限り公然と要求をISが掲げるのは、水面下の要求が拒否された時で、脅しの通り殺害しているようです。ISに対して「交渉要求」自身が「死

と直結しています。安倍首相はヨルダンに転嫁された要求の責任をどう考えているのだろう。何故トルコを選ばずアンマンだったのかに彼の政治姿勢は明らかです。

ISに翻弄されている間に、リビアでも「トリポリ一の安全ホテル」が襲撃され、アフリカでボコ・ハラムが大量殺害でISに連動し、欧州ではギリシャで「急進左翼進歩連合」勝利。ウクライナも緊張と世界の激動を実感しつつ、安倍首相の立ち位置に危機感を持ちます。

どの国の駐イスラエル大使館もテルアビブにあり、エルサレムは占領地なので大使館を置きません。そのエルサレムでイスラエル国旗と日の丸を背にネタニヤフとの「テロとの戦い」宣言がどんな意味を持つのか?!その一方でパレスチナの国際刑事裁判所加盟に反対を表明。もはや中東における日本の位置はイスラエル・米側と宣言したようなものです。

「詩集明日戦争ははじまる」をじっくり読みながら恐ろしい現実感にたじろがざるをえない今日です。

1月29日 1月8日以来久しぶりの外へ!グラウンド運動。少し風が出ていて寒いです。でもマンサクの花が咲きはじめています。小枝のあちこちに黄色いリボン<sup>リボン</sup>を結んだような花ですが、それが風に揺れて陽に<sup>こがね</sup>黄色に光っています。

友人たちからのお便りで、西浦さんの追悼会が素晴しかったことを伝えてくれてありがとう。私のメッセージもTさんが読み上げて下さってありがとうございます。旧友たちが集って西浦クンの思い出など、2時から7時まで大いに語り合ったとのこと。Yさんら友人たちの西浦クンへの同志愛と西浦クンの人徳でしょう。百人近い人々が語り合い散会后各々また二次会へ。有意義な再開がたくさんあったようです。

1月30日 昨夜の天気予報通り明け方目覚めるとすでに獄庭は真白で粉雪が静かに降り続いています。

友人からの資料、お便りの中に「スノーデン氏が『イスラエル移民省はシャルリー・エブドに対するテロ事件に関係している』と語った」とのこと。スノーデン氏はロシアの新聞インタビューで「イスラエルは外国への移民流失に不満を感じており、イスラエル移民省の関係者を使って諜報機関モサドに対して外国への移民流失を止めるように要請」「このような計画によりイスラムの預言者を侮辱する風刺画が2005年にヨーロッパ雑誌に掲載されたが効果なかった。その



てダッカ事件での日本政府の対応を問題視していたらしいですが、「安倍氏が事件当時首相なら同じ対応していたんじゃないか」と反論しています。

福田首相の「人命は地球より重い」発言は私たちにグサツとききました。真実であり、私たち人々のために闘う者たちの側こそ言うべき言葉を福田首相に言わしめていること。作戦勝利しつつ「人質作戦はやめよう」と考えるに至ったのは、ダッカ闘争の作戦部隊自身の総括からだったのを思い返しています。

2月9日 もうすぐ堀の外の白梅がほころぶでしょうか。今の房からは見えませんが。

今日は、母の誕生日。梅の花の好きな母でした。87歳で亡くなりましたが、生きていたら97歳、いろいろ思い出します。

デジカメ歌人「立春」のお便り感謝。

2月10日 青空光一杯の朝、霜は一面に真っ白。朝のベランダ運動時、今日は私の布団干しの順番と伝えられました。一ヵ月一回のシーツ、枕カバー交換、布巾やポットの洗浄などが行われています。ベランダ運動も寒いけど青空。ベランダは、コンクリートの上に（多分病人が転んでも怪我しないように）、モケットが敷いてありますが凍っていてバリバリと音がします。今が一番寒い時期です。

昨日は休刊日で、今朝、昨日の夕刊と今日の朝刊が届いて世界を見渡しています。ウクライナも大戦争の危険。中東では、ヨルダンが報復空爆を米国と共に強化しています。記事にはなくてもヨルダン内の人々の不満が広がりそうな気がします。

また、イスラエルのシリアアサド政府軍やヒズブッラーへの空爆（1月下旬）への反撃報復が1月28日に行われた件（イスラエル兵2人死亡、7人負傷）で、レバノン国境も緊張のはずです。イスラエルの反撃で国連監視軍のスペイン兵士1名が殺されて、司令官は、「国連安保理決議1701号違反だ」と、イスラエルを非難しています。また、レバノン首相も同様の非難をし、レバノン外務省は「ヒズブッラーの越境砲撃はレバノン領内のイスラエル占領下のシャブアー農場に対するイスラエル軍による殺傷作戦への報復なので、国際法上合法」と述べているとのこと。

そんな中、日本ではシリア取材のカメラマンに「旅券返納命令」の暴挙。政権の政策に従わない行動は許さないという危険な動きです。国家は国民の命を守る義務がある。だからといって、予防的にパスポート使

用禁止・返納命令が許される筈はない。個人の自由が恐ろしく制限される兆候です。ジャーナリストの戦場取材に危険情報を知らせることはあっても、パスポートを取り上げるなんて暴挙を行うのは、世界中で日本政府くらいでしょう。後藤さんの意志を継ぐ者を讃えるべきなのに。オバマ大統領ですら、後藤さんの行動を讃えて哀悼を述べたのに、「奮勇」という日本の自民党。「奮勇」というのは、日本国民が拉致されているのに、その犯人たちを挑発するように、中東に乗り込んで発言している安倍首相のことでしょう。「反テロ」の名で、何でもありだったブッシュと同じパターンの安倍首相です。今の米国大統領が共和党でなく、民主党のオバマ大統領で、今のところほんの少しましです。

2月11日 「建国記念日」。

毎年思い出すのは、67年の初の「建国記念日」のこと。明大学費闘争、いわゆる「2・2協定」の混乱の中、雪が大量に降った日。中央大学学館から見下ろすと、雪の中、日の丸を掲げて黒い学生服の一団が行進していきました。私たちは、前日に、そして当日に反対のジグザグデモ。右翼学生と厳しい対立の時代でした。1月30日には機動隊が導入され、学長から昼間部「全学闘争委員会」夜間部「全二部共闘会議」解散命令が出て、バリケードが崩され、ロックアウトされていた時代。自民党支配を打ち破れず、私たち反対する勢力の戦略性の欠けた闘いに、今の日本を築いた一端の責任があると、遠く思い返す「建国記念日」です。

2月12日 今日午後はCT検査。でも午前中は、久しぶりの1月8日以来の屋外運動でした。屋外グラウンドを、女区は毎木曜に使用可能なのですが、ずっと雪、雨の木曜日だったのです。今日、マンサクの花を見ましたが、もう盛りは過ぎてしまいました。1月に降った雪が日陰に残ったままです。枯芝の下には、それでもクローバーやハコベの緑が萌えはじめています。日差しは思いの外暖かく、風もなく少し走ったら汗をかいています。

午後は心電図をとって、そのあとCT室へ。頭、胸、腹部のCTを撮りました。その後2時半に終わってから遅れて昼食。3時前にすぐ主治医診察。すでに先ほどの結果は主治医のほうに伝えられていました。心電図異常なし。CT映像は見せてくれて「異常はなさそうです。これから専門家がチェックして、異常があれば

ば伝えてくれます」とのこと。また、2月2日採取の血液検査の結果、腫瘍マーカーは正常範囲に収まっているとのでホッとしました。ただ、悪玉コレステロール値が、投薬で下げているにもかかわらず高い値なので、薬を変えて様子を見ることになりました。これまでの検査結果では、大腸の5ミリ以下の突起物が発見された以外は、今のところ良好です。来週は胃の内視鏡検査です。

四方田先生、ニューヨーク便りありがとうございます。アメリカ亡命中のキューバ人たちが、どのような文化を創っているのかのフィールド調査中とのこと。先生は去年の12月25日、NHK教育TV「視点論点」で、山口さんの生涯を回顧した番組に出演した時の話を書いておられます。山口さんの政治的役割も語り、その中で私についての話もして、私の山口さん哀悼の短歌を朗読された時の話。NHK側はそれには難色を示し3回にわたって3人のスタッフを長い議論で説得して納得してもらい、実現したとのこと。先生の友人たちから「よくやった!」とメールもあちこちから頂いたようです。私の友人も「あのNHKで!」とすぐに伝えてくれました。「ニューヨークは以前よりもっと貧富の差は広がり、9・11はなかったかのように誰も口をつぐんでいます」とのこと。

2月13日 霜一面の雪のような白い朝。

今日はずらしく一番風呂。朝食8時の後、8時半ごろから15分の入浴。湯船というか、小さいバスタブにゆったり……と言いたいところですが、いつも10分で「あと5分!」と言われるので、毎回大慌て大急ぎの入浴騒動です。房まで戻るのが寒い!でも今日はスチームの残りの暖で房内が少し暖かくホッ!

人民新聞編集長より最終原稿受け取り、2月15日号に載せるとのこと。体調気遣ってくださいありがとうございます。

Kさん、1月のお便りをちょうど読み返していたところ。新しい年と共に、何よりも健康で再会を!と思います。彼の居るお寺はすばらしい青空の桜?それとも今年の梅、白梅と紅梅?白梅は巨木で桜のよう。あなたの一首のせい、桜の花とみえます……。 “七回忌桜とともに散った君不意の涙に走馬灯めぐ”庭にはどんな桜が咲いているのでしょうか。

2月16日 週末に「アフリカ人都市経験の史的考察」読み終えました。昔の著者を思い返しなが、良い仕事を遺したなあと思いついてます。夕方友人か



らの便り、ありがとう!

その便りの中でISは、クルドの女性を兵士に与えているとか、ありうるのか? また、「女性は教育不要とか、どうなのか?」との質問がありました。私も一般論でしか答えることはできませんが、「ありうる」と思っています。

ISの行動は、コーランの原理に基づくといいつつ、それを「大義」口実に野望ばかりか欲望を遂げようとする輩もいるからです。「神の主権」のもとで、預言者ムハンマドが授かった言葉を伝承してまとめられたのがコーランやハディースです。それらは年々整理統合されて、8世紀ごろの世界では先進的な思想を体現した法的体系でした。

その後、世紀を超えてコーランやハディースに書かれていないことがらを、それらに基づいて共同体で決定し、また法学者の判断に基づいて時代に反映させつつイスラム社会の法体系を整えてきました。今では、政治社会においては、代議制の国民選挙による法体系があり、いわゆる世俗的な国家運営がなされています。

ISの主張は、神権に戻ることを社会規範とする以上、恣意的に奴隷制や戦争の時代のファトワ（註:イスラム教指導者によって下される法的決定）を自分たちの都合と欲望に合わせて持ちこんでいると思われる。10世紀ごろ、敵が改宗しない場合、女・子供は奴隷にされ、財産の没収は当然でした。そういう「統治の諸原則」などの規定もあります。ですから世界が奴隷制だったり、捕虜をどう扱うかが、議論された時代の規定に基づいてISが行動していても、それはISにとっては合法的な決定・仕事なのでしょう。こうしたISを支持する民衆が多いというところに問題を感じます。

これまでの、欧米やアラブの権力者たちへの恨みが

込められていることに対応・解決するのは、決して軍事的解決ではありません。ムハンマドの時代は、妻含めて女性が活躍した時代です。保守的な男社会が、女性を教育不要としているにすぎません。また、私たちがアラブにいた時代も「左派」に敵対していたのがウサビンラディンらの「反共派」でした。ウサマらは、イランのシーア派の革命に当時から強い対抗心を持っていました。70年代、80年代、きっと今でもそうでしょうが、イスラムのリーダーたちは進歩的開明派が多かったのです。反植民地闘争を闘い抜いたのも、また、パレスチナのインテリファダで柱になって闘ったのも、こうした宗教リーダーたちでした。

2月17日 朝方、雪が降り始めて、10時頃には止んで積もりませんでした。

「デンマークの銃撃事件」、デンマークに移住したパレスチナ人の青年が「犯人」だったとのこと。「フランスの事件」も「デンマークの事件」も西欧社会が自己批判からとらえるべき事柄です。彼らは「自国民」なのです。「ユダヤ人迫害」を反省したと言うけれど、その責任を植民地だったアラブパレスチナに押し付けてきたことを、欧米社会は一度も謝罪したことがない。そればかりか、不公正な昔の関係のまま。西欧の植民地マインドは、過去のものではなく、現在の差別につながっているのです。イスラムに対する侮辱、パレスチナを追われた怒り、現在の生き辛さがISへの共感につながったとしても不思議ではありません。むしろそう考える若者は多く居るでしょう。ただ、愚かな事件を犯さないだけで、「反テロ」の大合唱は、さらなる怒りを生み、何の解決にもなりません。

イエメンでも政変で、米欧日大使館は閉鎖退避。私たちは、南北イエメンに分かれていた頃、いろいろかわりのあった国です。PFLPの源流、アラブ民族主義運動(ANM)のイエメン支部が、69年に人民革命を実現したのです。パレスチナ支部だったPFLPとは兄弟組織の民族解放戦線(NLF)が南イエメン政府として権力を持っていた70年代、80年代は、いろいろお世話になりました。

74年には、シンガポール・クウェート作戦後アデンに戻り、75年には、アデンの軍事訓練所で訓練したという自供で、米国の圧力、日本の抗議で迷惑もかけたし、また統一をめぐる南北戦争の80年代には、南部を政治外交的に支援したりしたこともありました。

当時から、北部には、シーア派イスラムのザイド派

が居て、北の人口の過半数以上を占めていて、20世紀初頭には、イエメン王国独立を達成したのも彼らでした。

イエメン革命を経て、ザイド派イマームの権力も崩れていたのですが、サレハの独裁体制が崩れると、ザイド派の中のホーシー派が拡大して、現在のクーデターで権力を掌握したようです。(去年には、首都サヌアを制圧、ザイド派の権利向上を求めて、サレハ大統領と対立したフセインホーシーを弾圧。ホーシーはイランに逃れたが、戻っていた2004年サレハの治安部隊に殺された。その後継者たち)ホーシー派はアルカイダ系の勢力である「アラビア半島のアルカイダ」と対決しています。

振り返れば、「イエメンの春」も他の中東全域同様、外部勢力の介入で暴力化し、宗教的争いが激化してきました。それは、「米欧価値観」がグローバル世界で、優位性を失っている現実と連動しています。

2月19日 春節！そして「雨水」。今日のグラウンドには、ちょうど検査が重なって行けません。

今日はエコー検査と胃カメラ検査。朝の9時半からエコー検査。気になったのは、2013年9月のエコー検査で見つかった胆嚢の「石灰のような石」と言われていたもの。当時5.6ミリのものが倍の大きさになり、どうも石ではないようだとのこと。胃カメラの方は異常なし。胃カメラは主治医が慣れていて、10分足らずでOKでした。主治医に安心できると、治療も前向きになります。

今、『人民新聞』の2月15日号受け取りました。板垣先生のインタビューが出ています。私のコメントも出ています。今、「テロを激化させる『反テロ戦争』」というタイトルの板垣先生の文読んだところ。「世界のカオス状況は、欧米中心主義の崩壊過程だ」と述べています。同感です。400年続いた欧米中心の世界の再編成とは資本主義の終焉あるいは再調整という内容としてとらえられるべき議論であり、「米中時代」とか「G20」とかの皮相的な見方では解決できないこと。また「反テロ戦争」をやればやるほど、テロは広がり激化すると指摘しています。現代世界最大のテロとは、イスラエルの「国家テロ」。問題の核心を変えれば、世界の様子は変化し始めると訴えています。そして、イスラエルの「国家テロ」を止めさせる力を世界中で強めることこそ「テロとの闘い」というスローガンに対する答えだと述べています。中東の植民地支配、不公正の引き継ぐ歴史、その実体の要はパレス

チナ問題、つまり「イスラエル」問題です。それぬきに「反テロ」を叫ぶ欧米のやり方は、欺瞞的です。

2月20日 夜、スポットニュースで、城崎さんが不当に収監されていた米国より送還逮捕されたと伝えてあります。私の条件では何もできませんが、彼の友人たち、旧友や弁護士、救援連絡センターの方々に感謝し、見守ります。

新聞では、株が15年ぶりの高値との記事。それはそうでしょう。日銀が投資信託を5千億円買い支え、去年運用基準が見直された「年金積立金管理運営会社」が国内株購入比率をこれまでの倍以上の25%に増やしたのですから。これって、政府による株価操作。見せかけの成長によって輸出企業や円安に潤う層以外は一向に実感のない「アベノミクス」。反対に、年金や医療費など厳しい条件が生活を苦しめている様子です。

2月23日 今日は暖かいらしく、曇天ですが、チームが朝も午後も入りませんでした。でもやはり寒い！

週明けに資料やお便り受け取れるのはいつも楽しみです。雑誌、パンフ、資料、プリント頂きました。また、お便りも感謝です。

デジカメ歌人は、「雨水」の近江神社の参詣道の5脚の椅子の写真。春を待つ姿です。“二日分欠けたる寒月母に似る笑うて暮らせと小窓を横切る”「春まであと一息……。季が変わり、冬が去り、春はきっと来ると信じられるのでしょうか」と。春にこちらから近づいてみましょうよ！体調はよいですか？

2月24日 今日スチームはなく寒い曇天です。

今日の新聞では、「検証IS人質事件」として、後藤さんが拘束されてからのメールが11月下旬から後藤夫人に届き、12月3日にそれを外務省に連絡。やり取りが続き、1月初め「1500万ユーロ(約20億円)」の身代金要求。夫人はコンサルタントと協議しながら犯行グループと身代金交渉。『「イスラム国」が求めていたのは金。家族が対応していた。政府は当事者ではなかった」との首相官邸の認識。この誤りから、(または、わざと「政府は当事者ではない」と責任逃れして無視・支払わない方針)ずっと高をくくった態度。首相は能天気にもただテロに興奮、怒りのままに、中東訪問の「再考」もせず、むしろ「蛮勇」を発揮して、戦闘的演説をカイロでやったことがわか

ります。

IS側は後藤さん「個人」ではなく、当然日本国に身代金を要求していたにもかかわらず、個人家族に責任を負わせたうえに、「身代金の要求に政府は応じられない」としていた。1月20日、中東訪問時、逆にISに「最後通告」を突きつけられて、以降は日本国首相の面子を取り繕うことに終始した安倍首相。「テロに屈しない」と叫び、「人質の命第一」などは最初から口先でしか考えていなかったことを率直に認めるべきでしょう。

今日の新聞に師岡カーマ・エルサムニーさんのコメントが出ています。(前に「変わるエジプトと変わらないエジプト」の書評を書いたがその本の著者)

「ダーイッシュ」(アラブ人は軽蔑を込めてISを「ダーイッシュ」と呼ぶ。)イスラム教徒の著者はなぜ「ダーイッシュ」が生まれたのか？20世紀という時代にありとあらゆる人たちが、中東地域で「宗教」というカードを自分の利益のために使ってきた結果だと述べています。

アフガニスタンで「無神論者に対するムスリムの闘いだ」と80年代にはアラブ諸国からムジャヒディン(イスラム戦士)と呼ばれる何万人もの青年が戦地に行ったこと、それがその後アルカイダに繋がっていくことなど述べています。まったくそうです。

今スポットニュースで河野元衆院議長が安倍首相の政策を「保守」ではなく「右翼」と言ったとか。自民党にも常識の声在りです。村山・河野談話の「侵略したことを謝罪する」という国是を拒む安倍首相。世界に通用しないことが判らないのは右の人に多い。曾野綾子氏の言質も南アを例に挙げることで自分が非常識。世界メディアが騒いで当然。日本では「こういうつもりだったんでしょ」と痛みの傷として告発記憶されずにまた繰り返すのです。自画像がどんなに醜い姿も写さないのがこういった安倍ら。ワイツベッカー氏のように自画像のすべてを描いてこそ美しく、風格と共に他人の描いた画像とびったり重なりそして敬されるというのに……。沖縄での山城さん米軍拘束事件など安倍の「軍事イズム」は民衆の抵抗にどんどん凶暴になっているような空気を感ずります。

2月25日 今日は主治医診察で、この2月に全体的に行った検査について映像の写真などを見ながら説明を聞きました。

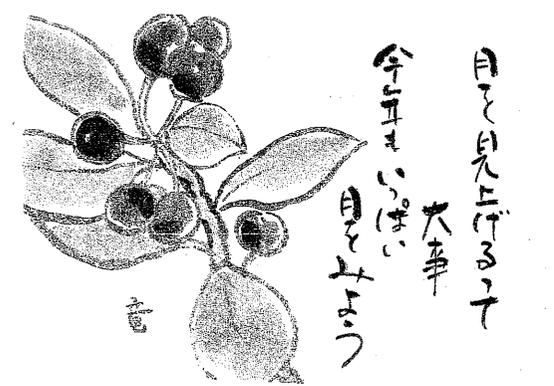
CT検査については、今専門家が検査しています。主治医は胃の内部映像を示しながら、いくつか赤くな

った胃炎があること、食道の入り口（歯から18センチの位置）に「異所性胃粘膜」があると指摘しています。これは食道の部分に胃と同様の粘膜状になる状態で原因はよくわかっていないが問題はない様子。大腸内視鏡で見つけた5ミリ以下の脂肪のかたまりみたいなのは「粘膜下腫瘍」だったとのこと。この新しい粘膜の下にある腫瘍は経過観察していく。また、エコーで見つかった胆のうの泥状のものは胆汁の成分の凝縮したものと思われるが、15ミリありこれも経過チェックするとのことでした。5ミリで普通小さいポリープは悪性でないのに、私の場合はそれが悪性だった経緯があり、粘膜下腫瘍というのはちょっと気になる場所です。

新聞にあきれた記事。2002～2004年イスラエル内でパレスチナ人のテロで死亡または怪我した米国人に対して、PLOとパレスチナ自治政府に2億1850万ドル（260億円）の支払いを命じるというニューヨークの連邦地裁判決。パレスチナ人こそイスラエル、アメリカから虐殺され、家を壊され、障害者として暮らしていることに天文学的賠償が支払われて当然なのに。このように闘いや抵抗を法と巨額の賠償で潰そうとする企ては許せません。日本でも経産省前テント立ち退きなどでそうした手口が使われそうです。闘いも財政兵站力強化が問われる21世紀です。

2月26日 曇ってるな……と思ったら、グラウンドに出る前に小雨で運動中止！1月も2月も天候のせいで、月1回しか外に出られませんでした。

今日は、医務より看護師が一人ひとりに説明に巡りました。「来週月曜日から、全患者にリストバンドを装着してもらいます。投薬その他取り違えや間違いが無いようにするためです。協力お願いします」とのこと。



と。24時間装着とのことで、「物」のように管理される不快感はありますが、今、一般病院でもそうなのではないか……。私の置かれた条件ではうなずくしかありませんが……。

午後は久しぶりの弁護士面会予定でしたが、その前に眼科診察。緑内障の疑いと言われて、視野検査を外部病院で2012年12月に行いましたが、緑内障には至っていませんでした。以来一年半に一度位の検査。今回も、「正常と緑内障の境界位。薬は不要。年齢もあります」とのこと、とくに処方なし。瞳孔を広げる目薬をしてから、30分以上たってから検査で、弁護士の予定が重なってしまい気になりました。

終わってすぐ、大谷弁護士と面会。2013年12月以来です。医療の話です。この間の検査結果から、すぐ移監とはならないだろうこと、また、指名医歯科治療の件などあつという間の30分の許可時間が終わりました。先生は若々しく元気そうです。私も元気そうと言ってくださって若さを(!)讃え合いました。

この頃また、自民党の「お家芸」の業界癒着の怪しい献金があれこれ露になっています。西川農林水産相、下村文科相、望月環境相と、ぞろぞろ。「うまくやらなかった」だけで、小淵優子氏はじめ、議員の実態はひどいままでしょう。「政党助成金」も無駄使い。議員はエゴで公僕意識のない「特権層」としか、庶民は思っていないでしょう。

2月27日 久しぶりの快晴。でも今日は、「教育的処遇日」で、休業日のように運動はなく、室内体操。

NO NUKES VOICE No.3 受け取りました。水戸喜代子さんのインタビューが載っているので、先ずすぐ読みました。「大飯原発差止め訴訟」に原告として加わり、福島の子どもの被曝に国の責任を問う訴訟では、支援団体の共同代表として、各地の講演など、多忙を極められている様子。改めて活動の現実を知ることができました。

「原発は滅びゆく恐竜である」出版で、水戸巖さんの原則的な「反原発」の闘いに尽力しておられます。原発の危険性を理解するのに、必要のないものは知識ではない。必要なのは論理である。論理を持たない余計な知識は正しい理解を妨げることさえある」と、本の一節から語っている言葉も腑に落ちます。父の活動を支えた息子たちの話のところは、また本を読んだ時のように胸を苦しめます。もう三人が亡くなられて29年。哀しみから立ち直られて、最前線で闘う80歳という水戸さんの生き方に強く励まされます。

今日の新聞に「イスラエル首相訪米、オバマ氏側近が批判」の記事。3月初旬に共和党下院議長の下院議員の招待で議会演説するが、事前にホワイトハウスに知らせなかった由。「ネタニヤフの訪米は米イスラエルの関係の基礎に党派政治を持ち込むことになる」「有害だ」と、ライス大統領補佐官は語ったとのこと。

イスラエルは、米国の軍事経済支援がなければ、すぐつぶれてしまう国です。にもかかわらず、傍若無人に振舞うのは、ユダヤロビーが政権を左右する影響力を行使するためです。ブッシュ父が91年「湾岸戦争」に勝利しながら、二期目、クリントンに負けたのも、中東では当時、ブッシュとペーカーが中東平和を目指し、イスラエル側に圧力をかけたのが原因ととらえていました。とくにゴラン高原の返還を巡って、アサド父政権と合意に達しつつあった米国側のプレッシャーにイスラエルシャミールらリクード右派政府が反発し、ユダヤロビーが「米国国内経済」を理由に、ブッシュからクリントンサイドに支持を強めた、と言われていました。当時、その動向、ユダヤロビーの強さを、驚きをもって見ていたものです。

もちろん、米国のシオニストにも「和平」推進する昔の労働党政策を支持する勢力も居ます。でも、いつも「イスラエル政府のフリーハンド」を結局支えるのです。米政府のこんなにオープンな「不快感」は、米情報機関にイスラエルがスパイ網を作っていたのが発覚した時以来かもしれません。

2月9日に、在日本のイスラームの人々が『イスラーム国』と呼称しないで」声明を發したとのこと。それを受けて、私も日付けを逆戻ってこの号からISと記すようにします。中東では「ダーイッシュ」と呼んでいます。

中東に対する米欧の不正のふきだまりこそ、ISを「モンスター化」してきたものです。そしてまた、米欧の若者たちが自国に幻滅し、ISへ希望を重ねるのは、ISの問題ではなく、欧米自身が作り出してきた自身の映った鏡にすぎないのです。これからの21世紀の国際秩序は、公正な中東秩序の再構築抜きには壊れ続けるでしょう。

その要は、イスラエルに対する「占領地支配」や「民族浄化」「国家テロ」「国際法違反」に他の国々同様制裁を科して矯正すべきです。そしてまた、IS並みの「人権問題」を抱えるサウジアラビアら王制諸国に対して、IS同様に国際社会が問題とすること。米欧のダブルスタンダードは、「サイクス・ピコ密約」以降今も続いていて、民衆はそれを肌で感じるが故に、欧

米を信用していないのですから。

3月1日 44年前の昨日はペイルートに向けて日本を發った日、今日はアラブの地にはじめて降り立った日。25歳の時。いろいろあったけれど、苦しいことや哀しいことよりも、それを克服した喜びの方が胸に蘇ります。

当時は強い世論の抑制力で、「憲法改正」を叫ぶのは、自民党の党是ながら、青嵐会の「際物」たちだったのに、今は「政治の真中で改憲を叫ぶ」首相。自衛隊派兵活動の想定も何だか「映画の見過ぎ」みたいな非現実性。自衛隊の日本人救出活動を「その国の権力が維持されたところしか派遣しない」という自民党に「テロ事件で自衛隊の支援を受けなければならないほど治安の維持の機能が落ちている国で、果たして権力維持していると言えるのか？維持しているなら、テロ事件の対応に自衛隊を受入れるとは考えにくい」と公明党。常識ですよ。ほとんどありえないケース」と。

過去に一例、1977年のソマリアで起きた「ハイジャック事件」で、当時西ドイツが警察の特殊部隊を派遣したことのみとのこと。このケースは、私たちの「ダッカ事件」のすぐ後に、PFLPとドイツの仲間がバーダーとマインホフらの西独の獄中からの奪還を目指した闘いでした。このケースは、特殊ケースで、まったく日本の自衛隊派遣と関係付けられません。第一に、当時のソマリア・パーレ大統領が作戦に協力していたこと。それに対して、西独が膨大な援助と恫喝で、パーレ大統領を黙らせたことで、成立したに過ぎません。そうでなければ、ソマリア軍が動いたからです。また、西独は軍ではなく警察力を派遣したのです。日本政府は「ダッカ」と「ソマリア事件」から、警察に「特殊部隊」を創設して、「今度は日本赤軍の要求に屈しない」と、当時宣言していました。「反テロ日本人救出」に自衛隊が出動する余地は無いし、当事国現地にとって迷惑以外のものではありません。今回の「邦人人質事件」だって、安倍首相のヨルダンに対策本部を置くと言う過ちのために、ヨルダン側ですでに進行していたパイロット救出の交渉を複雑にし、ISに玩ばれてしまったのです。米国や世界に力を誇示したい安倍首相。「自衛隊派兵」も非現実的な結論ありきです。

3月2日 午後の安静時間中、女句の担当の人に「調べが入るので、パジャマから作業着に着替えておいて

ください」と言われ、「何の調べですか?」と尋ねたのですが、すでに行ってしまいました。あわてて作業着に着換え。

2時5分前に「準備できた?」と聞かれたので、「はい。何の調べですか?」と尋ねると、「わからない。とにかく外部からなので、こっちはわかりません」との回答。これはおかしいと思いました。外部? 警視庁あたりの呼び出しではないか? 城崎さんと関連しているのではないかと気になりました。前にフランス予審判事が、警察庁、警視庁、共々でやはりここに調べに来たことがあります。その時は、処遇首席が来房して、そのことを告げ、任意の取り調べであると、私の意志を確認しました。私は、会う考えもないし、調べに応じない旨を処遇首席に伝え、お引取り願ったことがありました。

今回そういうことなら女区から中央棟に行ってから何かきちんと伝えられるのだろうと、女性係官に連行されて、中央棟に行きました。小さな部屋のそばまで行くと、「こちらへ」と男性係官から入るように言われた部屋の方を見ると、私服の背広が少し見えまし

た。「ちょっと待ってください。どなたのどちらの責任の方が私に用事があるのですか?」と男性係官に尋ねると「警視庁の方から……」と言うので、「警視庁の方なら、こちらは会う必要はありませんよ。任意ですか? 強制ですか?!」と私は声を荒げました。「任意です……」と、係官が応えていると、私服の背を向けていたニコニコ顔の40代男が「あ、警視庁の者です」と、こちらに向けて言いました。私は係官に向かって、「任意ですか? 強制ですか?! 任意なら拒否します。こちらから話すことは何もありませんよ!」と言うと、ニコニコ警視庁は「任意ですが、いくつかお聞きしたいことがあるのでお願いします」と話しかけてきました。「拒否します。以上」と私が言ったところで、もう一人男性係官が入ってきたので、「任意調べなので、拒否しましたので、戻らせてもらいます」と告げました。

女性係官は私の意を理解し、(移動は勝手には歩けない規則) 私に移動号令をかけ、きびすを返して戻ってきました。結局、今回は何も通告されず、警視庁職員の一と遭遇することになりました。おかしなあり方に憤然。

3月3日 桃の節句。

朝、係官に昨日の件で今後きちんと欲しいので、

願箋を書くことを申し出ました。前にはきちんと処遇首席からどこから来たのか、任意取調べの時は、私に意志を確認したのに、今回は聞いても知らされず、警視庁の人間に会うことになった。システムとしてどうなのか? 今後こういう時には、前のように事前に知らせるべきではないかと書くつもりだと伝え、昨日はちょっと行き違いがあった。今後は前のように事前に知らせますので、大丈夫ですとのこと。今後正されることなので、結局それで諒解しました。

今日は、窓の外の飯桐(南天桐)の大木すべて、今年これから咲くみごとな枝垂桜の木もクレーンとチェーンソーで順次根元から伐採しています。前から通告されていたことですが、大きな木が短い時間にどんどん命を奪われるのは哀しい……。この八王子医療施設の移転は前から計画され、跡地利用もかつて公園にすると記事に出ていたので、そういう一環なのでしょう。淋しいことです。もう一春枝垂桜を咲かせたかった……と。

そんな感傷の気分のところ、「リストバンド」の件で、つけるように言われて、反発もつってしまいます。普通の病院では普及しているとのことですが、獄中という特殊条件では、二重の束縛感になります。

また、今日の朝日新聞の解説記事「いちからわかる」欄では「日本赤軍ってどんなグループ?」の記事。「学生運動から派生した過激派。海外でテロをくり返した」のタイトルで説明。「パレスチナ解放闘争に参加した」一言もなく、こんな風に若い人に教えるのか……と、がっかり。「テロ組織」の名で貶めてきた公安情報がいきわたっていますね。60年代から現在に至る自民党官僚支配との攻防の力関係の結果として、一方的なそうした情報の現在を苦く受け止めています。

3月5日 真青な空の下、やっとグラウンド運動日。新しく移った房は運動場が良く見渡せるのですが、十数本の5メートル以上の高さの南天桐、枝垂桜の真新しい切り株で視界には大木がなくなっています。運動場の桜の大木、2メートルちかい老桜は残されるでしょうか。見上げると無数の蕾をつけてグラウンドの隅に咲き時を待っています。まだ切られてはいないけど。

午後に「泉水国賠つうしん」が届きました。国賠訴訟獄外原告と泉水さんの同席は叶いませんでした。3月3日岐阜刑務所内で泉水さんの証人尋問が行われたところですが、どんな結果だったのでしょうか。泉水さんとふうさんの記録に岐阜刑の並外れた抑圧虐待処遇に驚かされます。カイロもいまだ不許可。辞書の

箱の角を修繕したこと、10年前からそうしていたのに突如「不正使用及び不正製作」で摘発とか、書き損じた便箋の余白に書きましたとか、そんなことで懲罰審査の結果「戒告懲罰、無事故一年剥奪」などの刑。(一年五か月の間の「無事故」の蓄積は仮釈放などの要件の一つに審査されるとのこと。) 泉水さんへの嫌がらせではないのか? 私が岐阜刑なら毎日便箋の懲罰になりそう。「注意」「指導」もせず、すぐ懲罰なのはひどい。それでも2月4日付けの泉水さんの報告。新しく赴任した医師の「診察時の対応、話し方極めて懇切丁寧で驚きおもわず戸惑ってしまいました。現社会では当たり前のことかもしれませんが、そのような対応はこれまで獄中で経験したことはなかったからです。私たちは四六時中上から目線と命令口調の中にあつてまったく久しぶりに人として対応して頂いた感を持ちました。大袈裟でなく嬉しかったのです」と記しています。この八王子施設はどの医者も看護師も親切で社会と変わらない医療を目指しています。岐阜刑との落差に改めて泉水さんを思います。その医者にお礼が言いたいくらい……。泉水さんもうすぐ誕生日、

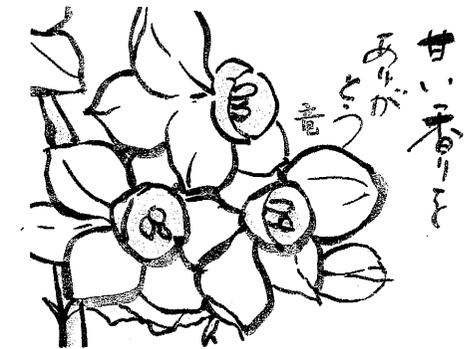
Happyバスター!

3月6日 啓蟄。やはり春らしく、昨日野の草花を見つけて以来春の近さを感じています。窓の外のベランダ状に張り出したところに配管がいくつも並んでいます。そこにカラスでしょう。大きな巣を見つけました。でもきつと空いた時にせつせと枝などで作っていた巣、人が入って窓の開け閉めで巣を断念したのでしょう。八分出来上がって放棄されています。今日の伐採は数本の桜の木。でも太い老木は5本残りました。もうすぐ咲くのに……。

3月8日 国際女性デー。  
塀の外に白梅が見事に咲きました。

3月9日 週末から今日と寒さが戻ってしまいました。  
13時前に処遇課から呼び出し。面接室に行く。「外部から取り調べの人が来ています。任意です。」3月2日の手違いについては所内の規定で、外部の方が何も言わない限り、それを取り次ぐのが此処のやり方。前にフランスからの取り調べの時は、警察庁が任意取調べであり、私の意思を確認するようにとのこと

で、当時の処遇首席が確認し、私の意思で断った。今回はどこからと言われてないので「外部からの任意の



取り調べ」としか言えないと説明を受けました。私は「今後共任意かどうか、今回のようにそちらで確認の上私の方にお知らせ願います。先日警視庁だったので、今日の任意取調べ要請は検察庁と思われるので話すことはありません。お断りください。よろしく願います。」と処遇首席に伝えました。ちょうど城崎さんの調べも節目なのでしょう。

新聞では東北大地震やフクシマなど3・11に向けた四年目の記事が多く出ています。そう「3・11」はやはりここの白梅が満開に塀の外に見えたこの季節。「花は咲く」を口ずさみたくくなります。改めて脱原発を誓う日にしたい。「原発輸出」に熱中する安倍首相。今日訪日するメルケル独首相の「フクシマ3・11」から脱原発を決断した姿勢に学んでほしいところです。「株価操作」も上手くいって統一地方選でも上手くやろうと企む安倍自民党の導く先を見えなくしているのは、TVや非政治的な(それが非常に政治的なのだが)メディアです。3・11に改めてあの日あのころの命、原発の恐怖、暮らしを変える闘いの原点を直視したいと思います。

また、今もパレスチナでイスラエルによる弾圧、イラクのティクリートでは宗派戦争が激化、さらにIS空爆。3月1日以降サダムフセインの故郷ティクリートで危険な宗派戦争がはじまろうとしています。ティクリートは旧バース党スナ派の牙城。イラン革命防衛隊司令官が参加し、シーア民兵中心のイラク軍3万人の動員で、ティクリートにISが居るからと戦争がはじまっています。宗教戦争は益々悲惨な状況に流されていくでしょう。そして第二の都市モスル奪還の夏に至る戦いは益々無事の人を犠牲とする戦いとなるのが目に見えています。

ウクライナを含めて世界の中の3・11脱原発の闘いもまた世界の人々と共に!と心がけたい。春です!

★読んだ本★

(「日誌」の中の読んだ本への記述を編集室が抜萃したものです)

重信 房子

「アフリカ人都市経験の史的考察(初期植民地期ジンバブウェ・ハラレの社会史)」(吉國恒雄著 インパクション出版会)を読みました。

この本は、著者が長くジンバブウェに住み、研究してきた19世紀から20世紀のジンバブウェ社会史に関連する論文四編が載っている、いわばアカデミックな本です。しかも著者がジンバブウェに暮らす人々と、英語世界の研究者に対して、英文で発表してきたものを日本語に翻訳して発刊しているものです。その分、とても基礎知識のない私には読みづらいものでした。何度か本を閉じたくなるのを我慢して読み進めたのは、かつての友人の著書だという点でした。

そうして読み進めるうちに、第四章「あるアフリカ人フェミニズムの誕生：初期植民地ジンバブウェ」に入り、とてもよくわかり、また興味深く引き込まれて読みました。そこから逆に一章からの研究の内容も、なぜ19世紀から20世紀なのかも浮かび上がってきます。アパルトヘイトの原初の形成過程を「ローデシア」と、かつて呼ばれる前のセシル・ローズの領土強奪の時代から植民地化していく中で、アフリカ人の側の視座でとらえていっていることが鮮明になったからです。植民者による地域の「都市化」の中で、アフリカ人コミュニティがどのように形成されてきたのか、(アフリカ人の公設隔離ゲットーの出現、その仕組みや支配収奪の構造)その中で、アフリカ人自身がどのように生きてきたのか。

四章では、マイ・ムソジ(1885年頃~1952年)という一人の、最初に労働・生活・コミュニティのリーダーシップをとるに至った女性の

生涯をたどりながら、ジンバブウェ・ハラレの社会史を明らかにしています。この章によって、再び私は一章からもう一度読み返し学習し直すことができました。

第一章 南部アフリカ都市の差別的景観(ソールズベリー<ハラレ>における住居隔離と「原住民ロケーションの起源1892~1908」)

第二章 黒人出稼ぎ労働者の「階級的登場」(第一次世界大戦後のストライキ運動と自助団体)

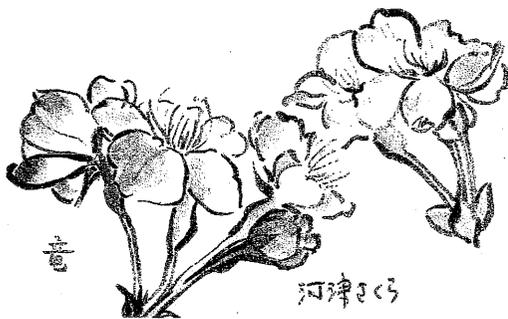
第三章 都鄙相制関係から見た都市の諸相(1950年代までのソールズベリー・ブラワヨ政治史の比較から)

第四章 あるアフリカ人フェミニズムの誕生：初期植民地期ジンバブウェ(マイ・ムソジとハラレアフリカ人女性クラブ)

第五章 書評(ジンバブウェ関連の「白人の夢 黒人の血・南アフリカにおけるアフリカ人労働者とイギリス拡張主義」など、四編の書評)で構成されています。

それに、また英語の原文も同じボリュームで収録されています。読み終えて「解題—ジンバブウェ社会史研究における吉國恒雄氏の著作」北川勝彦という項が続いていて、改めて解題に助けられながら、この論文の意義を教えられました。解題では、前提となるジンバブウェ共和国略史が記されていて、地理的歴史的な姿がよく分かります。

(ジンバブウェは人口1200万人の南部アフリカ内陸部人口の75%は農村地域残りは都市部。大部分の大部分のアフリカ人は伝統的宗教を信奉しているが、多くのキリスト教徒、イスラム教徒が居る。セシル・ローズに騙され、署名した文書によって1890年イギリスはジンバブウェを植民地化、白人移民が増加し、1930年には土地分配法によって人種別に土地を分割し、アフリカ人は排除される。1965年イアン・スミスがイギリスから一方的に独立宣言し、「ローデシア」とした。この人種差別政策に対決して、アフリカ人の解放闘争が続いた。1980年、和平協定から総選挙を経て、ムガベ首相誕生して現在に至る。) また、著者の論文は「差別観念・衛星問題への



関心が単純に差別的な空間の形成をともなう植民地都市を誕生させたとは見るのではなく、差別観念の非合理性と差別の現実の経済的合理性の『不可解な関係性』に分け入ろうと試みている」と北川氏は指摘しているように、植民地支配下の生きた人々の姿を内在的にとらえようとする姿勢が四章のマイムソジの生涯の歴史的とらえ返しを行わしめたのだと思います。北川氏はこれらの論文の現代的意義として、アフリカの植民地時代の戦略上や通商上の、または資源の所在によって規定された「都市化」が農村—都市間の労働力移動としてどのように行われ、形成されてきたのか、新興独立国は残された「都市問題」のどう対処するか、ジンバブウェではIMFによる80年末から90年初頭の「構造調整政策」によって都市部人口の貧民化に陥ってきた。こうしたアフリカ都市行政研究の先駆を切り拓いた論文として、今後の研究の大きな節目を成しているという。アフリカ研究の世界レベルの評価にあるとのこと。

この本は日本では関心がないだろうと考えていた著者に、かつて共に闘った旧友たちが「日本でも必ず読む人がいる」と出版を勧めて発刊の運びとなったということです。友情の産物として、生まれた本ですが、アフリカの歴史を学ぶことのできる本です。この本を読んで、絶版らしいですが、やはり吉國さんの「グレートジンバブウェ—東南アフリカの歴史世界」(講談社)を読みたいと思いました。(2月16日)

127号の誤植の訂正とお詫び

- 2頁16行 負傷者→死傷者
  - 2頁18行 ハラムテルシャリーフ→ハラムシャリーフ
  - 4頁4行 友野顔→友の顔
  - 5頁左列16行 香りが→香が
  - 6頁11月18日20行 婦人→夫人
  - 8頁12月1日11行 版画見たい→版画みたい
  - 10頁左列12月12日10行 伝カーが→宣伝カーが
  - 11頁左列12月16日3行 行き→雪
  - 12頁右列12月22日5行 ロースとレッグ→ローストレッグ
  - 13頁左列12月25日終わりから8行 昨夜→昨夜
  - 14頁読んだ本の右列2行 だ1章→第1章
  - 14頁右列下から6行 一人尾→一人の
  - 15頁左列2行 今での→今でも
  - 15頁左列9行 「自由」→「自由
  - 15頁左列下から16行 マイナス名→マイナスな
  - 15頁左列下から13行 86年に→86年の
  - 15頁左列下から7行 質入→質問
  - 16頁左列下から19行 「違和感を」→「違和感」を
  - 16頁右列下から11行 あいつだ→あいついだ
  - 16頁左列下から9行 誤まらなきや→謝らなきや
  - 17頁左列12行 学級的→学究的
  - 17頁右列1行 ~すが、→すが。
  - 17頁右列14行 よく価値→読む価値
  - 18頁左列下から12行 ~同時に、→同時に、
  - 20頁右列18行 感心→関心
- 沢山の誤植を残し申し訳ありませんでした。

戦争をする国 差別煽る国 嘘をつく国 暴力の国

森本忠紀

毎週一度大阪府庁前へ火曜日行動に通っています。

全国の高校で朝鮮学校だけが無償化から除外され、三十年間続けられてきた大阪府・市からの補助金も打ち切られました。この差別行政の撤回を最も切実に望んでいるのは朝鮮学校へ子弟を通わせている、朝鮮・韓国の親御さんです。教育費の負担が重くのしかかっています。2011年から苦しみはもう3年間も続いています。「いつまで続くんでしょね」と漏らすオモニの声を直接聞いたことがあります。

オモニ会のメンバーのお一人は月一回来られま

すが、その日はお仕事を休んで来られるそうです。そういう話を聞くにつけても、日本人は黙ってはいけなと思います。これは日本人の問題です。日本の政治を動かしているのはわれわれ日本人なのであります。

府庁前には在日朝鮮・韓国人、日本人が集まり差別行政をやめろと訴えます。なかでもオモニたちはみな血を吐く思いで訴えておられるんだということがよくわかってきました。

この訴えに耳貸すことなくおおかたの日本人が黙っていることがぼくは恐い。遠来の人には進んで親切にするのが人情というものです。ましてや

## オリーブの樹 第128号

広い世界でただ一人兄弟ともよぶべき深い縁、互いに慈しむべき切っても切れない絆で結ばれているのが他ならぬ朝鮮・韓国の人々ではありませんか。一番近い友が差別されているのに知らんぷりで沈黙、差別に手を貸しているのが日本人です。何を考えてるんでしょうね、日本人は？

おおかたの日本人は自分にはひとには親切にしますと思っっているし、また、日本人というのはお互いに親切にします、もちろん外国のひとにも思っています。ぼくもそうです。

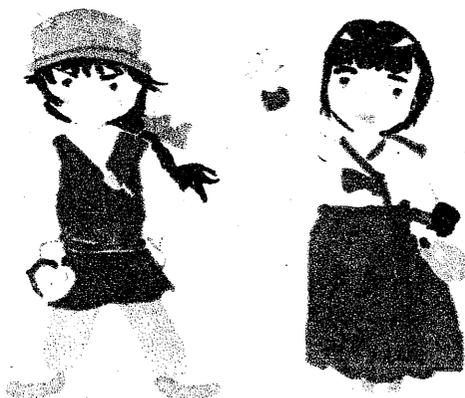
ところがいま現在、在日朝鮮・韓国のひとを差別しているのは一体誰なのか？まぎれなくわれわれ日本人ではありませんか？ひとの首を絞めて死なせようと一向に構わない、そんな恐ろしい人間が現在の日本人です。そしてそのことに気がついていません。それが恐い。

次に待っているのは何か？おおかたの日本人が差別を行動で表すこと。既に一部の日本人が露で暴力的な差別行動を執拗に繰り返しています。ネットで街頭で、あるいは公共の施設を使って。朝鮮学校を襲うことまでしました。えげつない限りです。同じようなことをおおかたの日本人がやるようになるかと思うと恐ろしい。

そのとき日本はどうなっているか？間違いなく完全な戦争国家、言論封殺国家です。首相から大

臣から国のリーダーがそう号令を掛けてるではありませんか？「創ろうつよい日本」と。そんなつよい国になったら生きていたくはありません、ぼくは。

つよい日本、弱い国民。すべてがなくなっていくようになっています。秘密保護法も集団的自衛権も。沖縄では海を壊して基地をつくらうとしているし、危険だらけの原発を輸出するわ、川内原発再稼働から次々に再稼働を目論んで。これがつよい日本です。国民は弱くなる一方です。手も口も封じられ、生きたくなくなるほどに。そんな時です。自分より弱い立場のものを見つけ差別行動に走るの、そんなことにはならない？それは保証の限りではありません。 絵：森本すぎな (中2)



### 後記

去る2月18日、「後藤健二さんの死を悼み、戦争と報道について考える」というシンポジウムが開催され、友人を誘って、出席しました。なぜ後藤さんだけなのか？という意見もありましたが、ジャーナリズムに焦点をしばったことによります。第1部の戦場をめぐる現実の中で、フリージャーナリストの安田純平さんは後藤さんと親しく、11月になっても彼と連絡が取れない段階から心配していたが、12月になって家族に尋ねると、12月頭に「イスラム国」から身代金の要求があった。政府に伝えたが、日本政府は選挙に忙殺され、交渉は何もやっていなかったようだとのこと。TVジャーナリストの金平茂紀氏は、この国の形が変わりつつあるのではないかと、「戦後」から、「災後」を経て「戦前」になりつつあるという状況認識だとのこと。「テロには屈しない」とか騒いでいるが、本当に国は人質を救出しようとしていたのか？と。ジャーナリストで映画監督の綿井健陽氏は、豊田さんと英語とアラビア語で声明を出し、人質の解放をよびかけた。ネットでも。これまでもジャーナリストが殺されているが、状況はどんどん悪くなっていて、外国人ジャーナリストが動きにくくなっているだけでなく、発表するメディアがつかめなかったり、難しい問題がある。フォトジャーナリストの豊田直己氏は、戦場で無ければわからないことがある。11年前に自衛隊がイラクのサマワの人が水に困っているからと行ったら、水はあって、毎日お風呂に入っていたとか。アジアプレスの野中章弘氏はベトナム戦争が終わって40年になるが、その間に亡くなった日本人ジャーナリストは8人で、その内6人がフリーランス。ジャーナリスト自身がターゲットになることが多くなってきたりしている。旅券返納命令を出されたフォトジャーナリスト杉本祐一氏が旅券を返したのは、そうしないと逮捕されますよと外務省に脅かされたからで、その方が不自由になると思ったからだそう。熱気のあるよい話が聞けました。 Y

連絡先 〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル5階

救援連絡センター気付 「重信房子さんを支える会」

郵便振替 00110-4-613941 オリーブの樹

頒布価格 500円

## 「正誤」表

### 第 128 号

- ①2P(短歌)左から2番目 「聴力の検査向きあう吾夢は吾耳の斥候のごとく鋭  
く心」→「聴力の検査向きあう吾耳は斥候のごとく鋭くかまえる」
- ②3P(1/13)左1行目 「小寒の便り→「小寒」の便り
- ③3P(1/13)左3行目 雪降り始む→雪降りはじめ
- ④3P(1/15)右2行目 ~元旦の「日記が→~元旦の日記が
- ⑤3P(1/15)右下から3行目 暗合状→暗号状
- ⑥7P(1/28)左下から1行目 ISに対して「交渉~→ISの「交渉
- ⑦7P(1/29)右下から1行目 再開→再会
- ⑧10P(2/10)左3行目 一か月一回のシート  
→一か月一回の布団、一週間一回のシート、(挿入)
- ⑨10P(2/11)右下から2行目 ~する勢力の→~する勢力側の
- ⑩12P(2/19)右下から6行目  
問題の核心は、そこにあるのでそれを変え(挿入)
- ⑪14P(2/27)右下から8行目 必要のないものは知識→必要なものは知識
- ⑫15P左上から9行、17行、19行 ユダヤロビー→イスラエルロビー(3ヶ所)
- ⑬15P左下から5行目 矯正すべきです。→強制すべきです。
- ⑭16P(3/5)右下から9行目 2メートルちかい→直径2メートルちかい
- ⑮18P右下から1行目 差別観念・衛星問題→差別観念・衛生問題